

◆マリンカレッジ等の開催

スジアラ（方言名：アカジン）の放流体験学習

紫波俊介

1. 目的

明日の沖縄県水産業の担い手であり、また、本県水産業の理解者となる次代を担う青少年の育成を図る。

2. 方法

①放流魚種の選定

スジアラは本県3大高級魚の一種で水産重要魚種であるが、水揚げ個体の小型化が進む等、資源管理の必要性が認められている。その為独立行政法人水産総合研究センター八重山栽培漁業センターが生産、沖縄県水産試験場八重山支場にて中間育成したスジアラ稚魚を放流する事により、資源管理型漁業の啓蒙を図った。

②. 実施対象

海星小学校5年生 19名

③. 実施場所

竹富島東沖

④. 協力

八重山漁業協同組合、八重山栽培漁業センター、石垣市、竹富町

3. 結果

平成16年12月10日に、スジアラの放流体験学習を行った。

漁船で放流場所まで向かうため、安全上の注意点やスジアラについての説明を行った後、生徒からの質疑応答を行った。

漁船へ稚魚を積み込んだ後、竹富島東沖にて生徒1人1人がバケツにスジアラ稚魚をとり、約1000尾のスジアラを放流した。

4. 考察

これらの作業を通して海星小学校の先生・生

徒に資源管理の重要性や、スジアラについて興味を持ってもらえたと思う。

また、生徒の質問内容から多くの生徒が栽培漁業に関心を持ったように思われた。地元テレビ局（OTV）も乗船したことから来年度も引き続き実施し、学校から地域へ、又電波にも乗せ資源管理型漁業の重要性を発信していきたい。

※海星小学校の生徒から出された質問

- ・種苗は何時生まれたのか。
- ・どのくらい大きくなるのか。
- ・3大高級魚とは何か。
- ・放流稚魚は自然のスジアラと判別つくのか。
- ・どのように胸鰭を取るのか。
- ・放流したスジアラを捕まえた時はどうすればよいのか。

5. 今後の課題

行政主導ではなく、モズク・シャコガイ養殖や、漁獲体長制限等漁業者が実際に行っている資源管理型漁業について体験学習を行い、漁業者自ら積極的に将来の後継者や水産業の理解者を育成する形にそろそろシフトしていても良いのではないだろうか。



漁船への稚魚積み込み



真剣な眼差しで説明を聞く生徒達



放流風景



いざ放流へ